

1月16日 ゲスト卓話



第 2770 地区米山記念奨学生

タ・ウンラ 様

こんにちは、今日卓話をさせていただくタウンラと申します。ミャンマーから参りました。世話クラブは川口東ロータリークラブで、会長は小林様、カウンセラーは深野先生です。私が所属している大学は埼玉県にある聖学院大学です。専攻は欧米文化学で、4年生です。よろしくお願いいたします。

◎大学の研究内容について

大学では、1年生のときには、日本語の特別コースで日本語を集中的に勉強していました。そこで学んだことを生かし、学内弁論大会に出場し、学長賞をいただきました。その後、2年生のときには NHK 外国人弁論大会に参加し、文部科学大臣賞を受賞することができました。その時の様子

はNHK テレビで放映され、素晴らしい記念になりました。

現在、聖学院大学欧米文化学科の4年生になり、卒業研究を終えることができました。卒業研究として、「ポップ・カルチャー」を勉強しました。そのゼミでは、欧米の映画を見て内容を理解するだけでなく、それぞれの国の言語・歴史・文化などの背景を学び、その国に行かなくてもその国についての知識を得ることができました。

このグローバル化社会で、世界の人々がお互いに分かりあうためには、ビジネスのための語学力を身に付けるだけではなく、それぞれの国の文化や歴史や考え方を知る必要があると気がつきました。日本語・英語のコミュニケーション能力をさらに高めて、日本や欧米など先進諸国の文化・歴史・社会について、もっと学んでいきたいと思いました。

◎出身国の紹介

次に、私の出身国について紹介したいと思います。

私の出身国はミャンマーです。ミャンマーは日本の南西にあります。ミャンマーには大きな八つの民族があります。その民族はそれぞれの州に存在しています。その中で、私の民族はカチンです。ミャンマーの北のほうに住んでいます。北では、冬は寒く感じますが、夏はあまり暑くないところ です。町の周りには自然がたくさんあり、美しい所です。町からおよそ40

ー50マイルで山岳地域になります。新鮮な果物や魚、伝統的な食べ物や伝統的な民族衣装が有名です。

◎将来の目標

次に、私の将来の目標についてお話しさせていただきます。

私が日本に興味を持ち始めたのは、ミャンマーにいた頃、テレビで「おしん」というドラマを見たのがきっかけでした。日本人の勤勉さや世界的に進んだ先端技術は、私の中に強い印象を残しました。その時、日本への憧れが生まれました。海外へ留学して立派な社会人になりたいというのが私の夢でしたが、日本に留学することができ、夢の第一歩が叶いました。

次の夢は、「立派な社会人になること」です。卒業後は、日本が世界的に成功しているビジネスについて勉強するために、日本の企業への就職を希望しています。先進国である日本の企業に就職できたら本当にうれしいです。日本企業で、いろいろなことを吸収したいと思います。そして、日本とミャンマー両国の信頼と発展のために尽くしたいと思っています。これが、私の次の夢です。

◎米山奨学生になってからの活動について

私は、米山奨学生になってから、大変生活が変わりました。そのことについて、お話しします。

経済的に安定を得て、勉強に集中できるようになったことはもちろんですが、それ以上に、米山奨学生になって色々な経験の場を与えられたことが、私にとって一番のサプライズでした。米山奨学生の今年の奉仕活動としては、「菜の花の里」という老人ホームへ行き、お年寄りの方々と交流しました。とても楽しいひとときで、国にいる祖母のことを思い出しました。

こういう奉仕活動の他にも、講演会やコンサート、レストランなどにもつれて行っていただきました。特に、ロータリー奨学金設立者の米山梅吉先生のお墓参りをし、記念会館でロータリーの歴史について講演を聞いたのが印象的でした。

ロータリアンの方々は、重要なお仕事をしながらも、社会奉仕や国際交流のために、忙しい時間を割いてミーティングを行い、活動を行い、私たち留学生の教育に一生懸命になってくださっています。その様子を見ると、いつか将来、私も立派な社会人になるだけでなく、そういう人になることができれば…と、第三の夢が生まれてきます。

米山記念奨学生として私を選んでくださったことに、心から感謝いたします。これからも、皆様の温かい応援をいただきながら、また頑張ってい

ます。

どうも、ありがとうございます。